

東京2020大会気運醸成動画の作成について

本年7月の東京2020大会開催を迎えるにあたり、区民の気運醸成や共生社会への理解促進を図るため、2つのテーマで動画を作成する。動画は区YouTubeチャンネルで公開するとともに、区ホームページや区公式Twitter等を活用して広く周知を図り、東京2020大会への関心を高めていく。

1 大会気運醸成動画

(1) 目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでの日常が当たり前ではないということを改めて認識することとなった。

大会が開催されるためには、ひとり一人がそれぞれの立場で地に足をつけて活動し、地域や社会が安定し、安全であることが前提となる。

区ゆかりのアスリートは、今、活動が制限される中であっても、大会に向けて真剣に取り組んでおり、その姿は区民に前向きな気持ちをもたらし、区民の中に自然と応援したいという思いが生まれ、それが後押しとなって、区ゆかりのアスリートの素晴らしい舞台での活躍につながっていく。

大会本番の年を迎え、区民やアスリートが、困難に負けずに活動している姿を映像にして発信することで、大会に向けた前向きな気持ちをメッセージとして伝え、大会に向けた気運を高めていく。

(2) 映像時間

2分30秒程度

(3) 出演者

18名（予定）

①区ゆかりのアスリート 4名

新体操団体 ・ 熨斗谷さくら選手（山王小、大森第三中出身）

バスケットボール ・ 本橋菜子選手（東京羽田ヴィッキーズ所属、区在住）

パラ陸上（走幅跳） ・ 高田千明選手（萩中小出身）

パラ陸上（やり投） ・ 若生裕太選手（大森第四小、大森第一中出身）

②区民（商店街や銭湯、羽田空港など区の特徴的な場所や職業の方）14名

(4) 完成時期

2月中旬（予定）

2 共生社会への理解促進動画

(1) 目的

東京 2020 大会の 3 つのコンセプトの一つに「多様性と調和」があり、「多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会とする」とある。そして区は、レガシーの一つとして「人種、国籍、宗教や障がいの有無などにかかわらず、誰をも受け入れる多様性のあるまち」を目指している。

また、新型コロナウイルスの感染が収束していない状況の中で、より一層、お互いを認め合い、誰もが生き生きと暮らせるように支えあうことが大切となっている。

そこで、区ゆかりのパラアスリートと選手を支えている方が交流を通じて感じている思いや支えあう姿を伝えていくことで、共生社会に向けた理解促進を図る。

(2) 映像時間

1 本あたり 10 分程度（2 本作成）

(3) 出演者

4 名（予定）

①パラ陸上（走幅跳）・高田千明選手と身体のケアをしている方

②パラ陸上（やり投）・若生裕太選手と幼馴染の方

(4) 完成時期

3 月下旬（予定）